

Protistology Newsletter

May, 2014

日本原生生物学会会報 (No. 26)

URL: <http://protistology.jp/>

学会名称の変更について

ご逝去のお知らせ

第 47 回大会 (仙台) のご案内 (第 1 報)

第 46 回大会 (東広島) 報告

活性化委員会より報告とお願い

日本分類学会連合 第 13 回総会 報告

会員による近刊出版物のご紹介

若手の会 通信

原生生物学関連の学会開催情報

事務局からのお知らせ

編集委員会からのお知らせ

学会名称の変更について

平素より学会の運営にご協力を頂きまして誠に有り難うございます。

このたび、私たちの学会はこれまでの日本原生動物学会から日本原生生物学会 (英語名称, **Japan Society of Protistology**) へと名称を変更致しました。

本学会の名称であった「原生動物」という概念について、現在の生物学における共通理解に沿って変更すべきか、伝統ある原生動物という名称を大切にすべきかという長い議論の末の決断です。

この議論は、2009 年の評議員会から始まり、その後「日本原生動物学会の名称変更の必要性を検討するワーキンググループ」が設置され、2012 年秋からは現評議員会で継続して議論されてきました。さらに、2013 年には全学会員へのアンケート調査も行われました。これらの議論とアンケート結果をもとに、2013 年度日本原生動物学会第 46 回大会の総会においてさらに議論を行い、最終的に、学会名称を変更すること、新しい学会名称は「日本原生生物学会」とすることが賛成多数で決定されました。

この名称変更に伴いまして、日本原生動物学会会則は、日本原生生物学会会則として、その一部が変更されました (詳しくは、学会ホームページをご覧ください)。なお、1 年間は移行期間として事務手続き上やむを得ず、日本原生生物学会と旧名称の日本原生動物学会の双方の名称を使用することがありますのでご了承下さい。

学会大会の名称につきましては、2014 年度大会より日本原生生物学会大会と名称が変更されますが、以前からの回数をそのまま引き継ぎ、第 47 回大会として開催が継続されていくことになっております。

また、学会の発足以来刊行を続けてきた学会誌『原生動物学雑誌』の名称につきましては、「雑誌の新名称を検討するワーキンググループ」が設置され、すでに多数の名称案が出されて議論が行われています。

この名称変更によって、関連する分野を取り込んで、学会に新しい血が流れることが期待されますが、これまでとまったく異なる方向へ舵を切るという意味ではありません。むしろ学会の原点に立ち返るという意味もあると思っています。実は、1967 年 12 月 2 日に定められた最初の日本原生動物学会の会則には、「本会は原生動植物に関する研究をすすめ、その知識の普及、向上を図ることを目的とする」とあるのです (原生動物学雑誌 (1968) 第 1 巻)。つまり、当初は「原生動植物」という言葉が用いられていたものが、1989 年に「原生動物」と改められ、昨年度までこの言葉が使われてきた訳です。そして、今回、再び「原生生物」と改めることとなりました。従って本学会は、より広い生物を対象とするという意味で、設立発足当時の初心に戻ったと言えるのかもしれませんが。

少数のモデル生物だけを使った研究が主流の現代生物学に対して、私たちの多様な原生生物学の研究が果たす役割はますます大きくなっていることは間違いありません。会員の皆様の研究が大きく発展し、生物学分野における本学会の存在がより大きなものになることを切に願っています。

会長 今井 壯一 (日本獣医生命科学大学)

ご逝去のお知らせ

本会名誉会員であり、原生動物学に偉大な業績を残された渡邊良雄先生が平成 25 年 10 月 8 日 (火) に逝去されました。先生のご遺徳を偲び、心より哀悼の意を表します。

渡邊 良雄 (わたなべ よしお) 先生

昭和 6 年 2 月 18 日生 (享年 82 歳)

日本原生生物学会事務局

第 47 回 日本原生生物学会大会（仙台）のご案内（第 1 報）

大会長 見上 一幸（宮城教育大学）

第 47 回日本原生生物学会大会は、下記の日程で宮城教育大学にて開催されます。皆様ふるってご参加下さい。

1. 会期 2014 年 10 月 31 日（金）～ 11 月 2 日（日）

10 月 31 日（金）： 評議員会、若手の会（予定）
11 月 1 日（土）： 大会第 1 日目
2 日（日）： 大会第 2 日目

※ これらの予定は今後追加・変更する場合があります。その場合は学会ホームページ、および、学会大会ホームページにて随時皆様にお知らせいたします。

2. 会場

宮城教育大学（住所： 仙台市青葉区荒巻字青葉 149）
（宮城教育大学ホームページ：<http://www.miyakyo-u.ac.jp/>）

懇親会・編集委員会・評議員会： 萩朋会館
総会・発表会場： 210 教室など

3. 発表

液晶プロジェクターを用いた口頭発表、ないしはポスター発表。
※ 皆様の希望する発表方法が偏る場合など、発表方法の変更をお願いする事がございます。

4. 申し込み

要旨提出締め切りおよび事前参加申込み締め切り： **2014 年 9 月 30 日（火）**（予定）
申し込みの詳細等は次号のニューズレターでお知らせいたします。

5. 参加費等

大会参加費等は、**当日受付にてお支払いください**。当日参加も受け付けますが、準備の都合上、できる限り事前の申込みをお願いいたします。

- 1) 大会参加費： 一般 3,000 円 学生 1,000 円（発表をしない学部学生は無料）
※ 事前参加申込み締め切り以降は「一般 4,000 円」となります。
- 2) 懇親会費： 一般 4,000 円 学生 2,000 円
- 3) 昼食（お弁当）代： 500 円（一食あたり。希望者のみ）

6. 宿泊

宿泊の斡旋は行いません。JR 仙台駅周辺のホテル等宿泊施設の利用が便利です。

7. アクセス

仙台駅西口バスプール【9 番】乗り場から市営バス「715 宮教大」, 「710 宮教大・青葉台」, 「713 宮教大・成田山」行きに乗車し, 「宮教大前」にて下車（所要時間約 30 分, 当日, 東北大学の大学祭があるため, 遅延が予想されます。時間に余裕を持ってご乗車ください）。

詳しくは, 宮城教育大学ホームページ (<http://www.miyakyo-u.ac.jp/about/campus/ct2.html>) をご参照ください。

なお, お車での来校はご遠慮下さい。

8. 大会事務局

日本原生生物学会第 47 回仙台大会運営委員会
E-mail: jsp47sendai@gmail.com

9. 実行委員会

大会長 見上 一幸（宮城教育大学）
実行委員長 西山 学即（福島県立医科大学）
副実行委員長 鈴木 紀毅（東北大学）
大会実行委員 島野 智之（法政大学）, 福田 康弘（東北大学）, 有田 富和（宮城県庁）
岩井 草介（弘前大学）, 芳賀 信幸（石巻専修大学）
太田 尚志（石巻専修大学）, 小浜 暁子（元 東北工業大学）

※ なお, 前大会実行委員長が 4 月に異動したことに伴い, 日本原生生物学会大会第 47 回仙台大会運営委員会の組織編成を以下のように変更いたしました。

大会長 【変更なし】見上 一幸（宮城教育大学）
実行委員長 【旧】島野 智之（法政大学）→ 【新】西山 学即（福島県立医科大学）
【新】副実行委員長 鈴木 紀毅（東北大学）

10. 後援

宮城教育大学, 福島県立医科大学, 東北大学大学院農学研究科, 弘前大学

日本原生動物学会第 46 回大会は、2013 年 11 月 8 日から 10 日までの 3 日間、広島県東広島市にある広島大学東広島（西条）キャンパスで開催されました。本大会では若手会員に制限時間内で口演を行う経験を積んで頂く事を目的として、一般講演は全て口頭発表とさせていただきます。また、大会本部と若手の会との共催として、8 日に重中義信先生による「プロチスタからの贈り物（当日、原生動物からの贈り物、に変更）」、9 日には野澤義則先生による「私のテトラヒメナ研究小史を顧みて」の 2 つの合同講演会を企画致しました。一方、8 日には「新たな技術に学ぶ原生動物研究の未来」のタイトルで若手の会によるシンポジウムが企画され、4 題の講演がありました。また、岩国市ミクロ生物館のご協力を得て、原生動物グッズなどの展示販売も同時に行いました。さらに、お子様連れの参加者用として、保育室として使用できる会議室や給湯設備を準備しました。8 日の夜は、広島大生協にて学会評議員会と若手の会との合同懇親会、9 日の夜には大会懇親会、10 日の学会最終日にはベストプレゼンテーション賞（BPA）の授賞式を例年通り開催致しました。今年度は、福田 康弘 氏（東北大学）、小橋川 剛 氏（兵庫県立大学）の両氏が受賞されました。



第 46 回大会長 細谷浩史



大会・若手の会合同講演会 重中義信先生「原生動物からの贈り物」



若手の会企画シンポジウム
「新たな技術に学ぶ 原生動物研究の未来」



一般講演
白熱する質疑応答



沼田治先生による
「渡辺良雄先生 追悼講演」



大会期間を通じ、参加者は 75 名（一般 41 名、学生 33 名）で 30 演題の口頭発表をいただきました。昨年の兵庫大会では、参加者は一般が 40 名で学生は 49 名、口演は 24 演題でポスターは 17 演題でした。本大会では口演題は増加致しましたが、ポスター演題の減少分は、数字の上では学生参加者の減少数とほぼ見合うかたちとなりました。例年ポスター形式の選択者は若手学生の割合が多い事を考えると、本大会で発表形式を全て口演にした事が学生参加者の減少につながったものと考えられます。他の大型学会では、最近発表スタイルをポスター形式から口演形式に戻つつある所が増えていきます（例えば日本動物学会では、2012 年から、高校生発表などの一部を除き全講演を口演形式に統一）ので、本学会大会でも今後これらの点で工夫が必要であると感じました。

今回一般の参加者としては、大学や研究所所属の現役の研究者だけでなく、企画講演会を聞きに来られた年配の方々や中学・高等学校などの先生方、また企業の方など各層から幅広く御参加を戴きました。地元広島県では県教育委員会が主催者となり、県内小中高等学校の先生方対象に教材生物を配布する教材バザールを毎年平日に開催しており、当方からも原生動物を提供し学校の授業に毎年役立てて頂いております。そこで今回、広島県内の理科教員を対象に教育委員会を通じて学会大会の案内を出させていただいたのですが、休日は研修やクラブ活動などいろいろな行事が行なわれており出張が難しいという先生方の御実情がわかりました。ただ、お忙しい中でも参加下さった教諭の先生方、遠くは九州の学校から御参加下さった方、東京の企業から御参加下さった方などに対し、原生動物の配布、各種ディスカッション等こちらでできる限りの対応をさせていただきました。このような熱心な原生動物サポーターの皆様のご協力のもとに原生動物学会があると強く感じました。



若手の会・評議員会合同懇親会 と 大会懇親会 のようす



BPA 授賞者
福田康弘 氏 (左)
小橋川剛 氏 (右)



大会・若手の会合同講演会 野澤義則先生「私のテトラヒメナ研究小史を願みて」

本大会を開催するに当たり、ご援助をいただいた学会本部はもとより、開催補助金の申請を採択して下さった東広島市、本会若手の会の皆様、兵庫県立大学園部研究室の皆様、岩国市ミクロ生物館、当研究室の教員・学生諸氏など、学会の枠を越えて幅広いご協力をいただきました。ここにあらためて御礼を申し上げます。



大会参加者一同

活性化委員会より報告とお願い

日本原生動物学会活性化委員会では、学会の名称変更を原生動物関連のみならず様々な学術団体へ紹介すること、また、他学術団体会員との交流の機会を図ることを目的として、シンポジウムの企画・開催と協賛を行うことにしました。

2014年4月21日現在、開催が予定されているシンポジウムは以下の通りです。日本動物学会第85回仙台大会にて公募シンポジウム「原生動物の魅力と研究最前線」の開催。日本分子生物学会第85回大会（横浜）でのワークショップ「原生動物～モデル生物としての大いなる可能性を探る～」の開催協賛。また、日本原生動物学会第47回仙台大会、および日本寄生虫学会第84回東京大会でもシンポジウムを開催する予定です。原生動物学会会員の皆様には、シンポジストとして発表を依頼する場合がございます。その折には、どうぞご協力を頂きますよう、お願い申し上げます。

日本原生動物学会 活性化委員一同

日時 2014 年 1 月 11 日 (土) 10:30 ~ 12:00

場所 国立科学博物館 上野本館 講堂

出席 今井 壯一 (会長), 島野 智之 (庶務)

【 報告事項 】 出席 24 団体 45 名の出席により総会は成立した.

(報告 1) 庶務 (富川 光)

2014 年度の活動

2014 年 1 月 10 日 第 30 回役員会を開催 (東京大学 総合博物館)

(報告 2) ニュースレター (松本 典子)

2013 年 6 月 21 日に第 23 号を発行

(遅れているが) 第 24 号は 2 月刊行予定

ニュースレターは連合ホームページ (<http://www.ujssb.org/NL/index.html>) よりダウンロードできる.

(報告 3) ホームページ (佐々木 猛智)

連合のホームページをさくらインターネットのサーバーに移管し, 問題なく稼働している (<http://www.ujssb.org>).

ニュースレター, 総会・シンポジウムの開催案内, ポスターを掲載した.

(報告 4) データベース (海老原 淳)

・日本産生物種数調査の公開ホームページを連合のサーバーに移行した.

・国内の重要コレクション調査を, 植物標本を対象として行った. 5 学会 (団体) に協力を依頼し, 維管束植物・コケ植物・菌類・藻類については, 約 270 のコレクションについての結果が取り纏められた.

(報告 5) メーリングリスト (三中 信宏)

Taxa ML 会員数 1,007 名 (2013 年 12 月 12 日現在), 1 年間に 28 名増.

【 審議事項 】

(審議 1) 2014 ~ 2015 年度役員を選出

以下の役員会案は拍手で承認された.

代表 : 村上 哲明 (首都大学東京大学院 理工学研究科)

副代表 : 大塚 攻 (広島大学大学院 生物圏科学研究科)

庶務幹事 : 江口 克之 (首都大学東京大学院 理工学研究科)

会計幹事 : 清 拓哉 (国立科学博物館 動物研究部)

監査員 (継続) : 篠原 明彦 (国立科学博物館 動物研究部) (2013 ~ 2014 年度)

監査員 : 上島 励 (東京大学大学院 理学系研究科) (2014 ~ 2015 年度)

(審議 2) 2014 年度広報出版委員会委員を選出

以下の委員会案は拍手で承認された.

委員長, Web (継続) : 佐々木 猛智 (東京大学 総合研究博物館)

ニュースレター : 富川 光 (広島大学大学院 教育学研究科)

データベース (継続) : 海老原 淳 (国立科学博物館 植物研究部)

出版, 命名規約 (継続) : 川田 伸一郎 (国立科学博物館 動物研究部)

メーリングリスト (継続) : 三中 信宏 (独立行政法人農業環境技術研究所 地球環境部)

(審議 3) 2013 年度決算

分担金支払状況

決算案 (一般会計, 特別会計)

会計監査報告

以上が, 承認された.

(審議 4) 2014 年度事業計画

4-1) 2014 年第 13 回公開シンポジウムの開催

2014 年 1 月 11 日 13:00 ~ 17:30 「生物多様性条約と名古屋議定書が分類学研究分野へ与えるインパクト ～ とくに国内措置について～」 (国立科学博物館 上野本館講堂)

4-2) 2014 年 2 月 15 日 生物科学学会連合 第 9 回定例会議に出席予定

4-3) 2014 年 7 月 14 ~ 18 日 第 14 回国際ダニ学会議に後援予定 (2013 年 11 月 19 日付けで承認済み)

4-4) 2015 年 第 14 回公開シンポジウムの開催 内容, 開催地は未定, 開催時期は 2015 年 1 月 10 日 (土) 午後を予定

4-5) ニュースレター

24 号: 連合加盟団体のトピックス, 第 13 回シンポジウム要旨, 加盟学会大会・シンポジウム案内等を予定

25 号: 連合加盟団体のトピックス, 加盟学会大会・シンポジウム案内等を予定

※ 加盟団体からも記事をお寄せくださいということです。

4-6) ホームページ

ニュースレターやシンポジウムの案内等の分類学に関する情報の掲載を継続的に行う。

4-7) データベース

国内の重要コレクション実態調査を進める。今年度は、動物のコレクション調査を開始する。植物のコレクション調査結果を連合ウェブサイトで公開する。

【意見】科博の事業と、連合の事業が、発表時に問題にならないようにしていただきたい。

【回答】調整しながら進めたい。

4-8) その他 特になし。

(審議 5) 2014 年度予算

2014 年度の分担金 10,000 円

(審議 6) その他

・日本原生動物学会が、日本原生生物学会へと改称した。

・鶴崎代表から J-STAGE における論文登載について話題提起され、日本植物分類学会 (海老原氏)、日本進化学会 (三中氏)、日本ダニ学会 (後藤氏) から現状が報告された。日本原生生物学会 (島野氏) から情報収集の必要性が提案された。今後、情報を集約し、連合の庶務からメーリングリストで報告予定。日本分類学会連合として要望書を提出することについては今後検討の予定。(詳細: J-STAGE は 5 年後には年間 50 編を超えない雑誌は掲載しなくなるという噂がある。実際、植物分類学会に対して、年間 50 編を超えないと採用しないと J-STAGE 側から通知があったことが報告された。今後、継続的に情報収集を行うことになった。)

・琵琶湖博物館 グライガー氏の動物分類学信託のシンガポールでのミーティングについて、15 分の講演があった。

国内では 3 学会が寄付をしている。日本窓口も作られた (グライガー氏ほか) が、直接の連絡先は、以下 ICZN: Mr Martyn E W Low (iczn@nus.edu.sg)

(以上、日本分類学会連合の議事録に基づいています。)

会員による近刊出版物のご紹介

「有性生殖論 - 「性」と「死」はなぜ生まれたのか -」 (NHK出版 刊)

著者: 高木 由臣 価格: 1,000 円 (税抜き) ページ数: 240 ページ 判型: B6

ISBN: 978-4-14-091212-6 発売日: 2014 年 1 月 21 日

有性生殖論

「性」と「死」はなぜ生まれたのか

高木由臣

Yoshimi Takagi



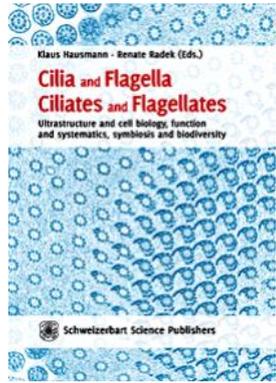
NHK BOOKS 1212

内容: 本書では、有性生殖の「意味」「起源」「進化」について、著者渾身の「論」を展開した。有性生殖の本義は、一般には「異なる性での減数分裂産物である配偶子が受精することによって遺伝的多様性を生みだすこと」とされる。著者は、ゾウリムシ研究者として多様な有性生殖様式に直面する中で、「減数分裂と受精」は「1 倍体化と 2 倍体化」として意味があり、有性生殖の本義は「遺伝的多様化」のための装置というより「突然変異の有用性を検証」する仕組みと見る。有性生殖は同系交配から異系交配へと進化したとみなされるが、「遺伝的多様化」(表現型の多様化) がもたらされるのは同系交配である。本書は、新しい Facts を紹介する本ではなく、新しい Concepts を構築する試みである。章の組み立てを工夫し、架空の質問者「疑太郎」を登場させるなどして、興味を持って読んでもらえるよう努めた。原生生物学会の会員、特に若手の会員に、挑戦的に読んで頂きたいと願っている。

高木 由臣 (奈良女子大学)

「Cilia and Flagella / Ciliates and Flagellates - Ultrastructure and cell biology, function and systematics, symbiosis and biodiversity -」 (Schweizerbart Science Publishers 刊)

編著者: Klaus Hausmann, Renate Radek 価格: 39.80 € (出版社定価) ページ数: 299 ページ
判型: 17 × 24 cm ISBN: 978-3-510-65287-7 発売日: 2014年1月



書評: 過去50年の「繊毛 / 鞭毛」と「繊毛虫 / 鞭毛虫」の基礎研究の進展を若者に伝える本にするための国際シンポジウムが、2012年9月11日～14日にドイツ北部のRüchow (ルーヒョウ)市にあるKlaus Hausmann氏(ベルリン自由大学名誉教授)の別荘で開催された。演者の平均年齢は68歳(最高年齢81歳)で、私は3番目に若いひよっ子の演者であった。大先輩の発表は今も現役であることを示す内容で、深い議論が行われた。主催者のHausmannご夫妻の手厚いもてなしもあって、極めて満足度の高いシンポジウムであった。演者は、G.A. Antipa, K. Hausmann, H. Plattner, P. Luporini, M.A. Sleight, H. Machemer, S.L. Tamm, D.H. Lynn, O. Moestrup, M. Fujishima, H.-D. Görtz, R. Radek, J. Boenigkの13名で、各人が1章を分担した本は今年の1月に出版された。年齢に関わりなく、夏休みなどにこの1冊をじっくり読んで研究の楽しさを味わっていただきたい。現在の著者と学位取得時の著者の顔写真も掲載され、その容貌の変化もおもしろい。
評者: 藤島 政博 (山口大学大学院)

※ 編集委員会では皆様の「近刊出版物」に関するご寄稿をお待ちしております(掲載条件等は原生生物学会メーリングリスト[jsp-member:00020]を参照ください)



若手の会 通信

若手の会 HP をぜひご覧ください <https://sites.google.com/site/youngprotozoologists/>
若手の会メーリングリストへのご登録をお願いします
protozoologists-subscribe@yahoogroups.jp に空メールを送付

若手の会会長就任のご挨拶

若手の会会長 梁瀬 隆二 (兵庫県立大学大学院)

新たに若手の会の会長を務めさせていただくことになりました、兵庫県立大学の梁瀬隆二と申します。私はロクロクビムシと呼ばれる繊毛虫の細胞運動について研究を行っています。ロクロクビムシはその名の通り、長く伸び縮みする首を持ち、それを素早く動かして獲物を捕まえるという原生生物の中でも特に変わった、面白い運動を行います。私がこのロクロクビムシの研究をしたいと思ったきっかけは、学部生の時、現在の指導教官である園部先生の授業でロクロクビムシが動き回る映像を見たことです。こんな生物がこの世に存在するなんて…とその映像に衝撃を受けました。実際にロクロクビムシの研究を始めて、特殊な生物であるということもあり一筋縄ではいかないことばかりですが、彼らがもつ不思議な細胞運動は、いつ見ても私が初めて彼らを見た時の衝撃を思い出させてくれます。また、運動に限らず、形態、摂食、性、生態などにおいても原生生物たちは多様性に溢れており、たくさんの魅力を持っています。我々若手の会はそんな原生生物たちの多様な魅力にとりつかれた者の集まりです。昨年の学会で原生動物学会から原生生物学会に名称が変わりましたが、これを機に原生生物全体に渡る研究者と交流を深め、原生生物がもつ多様な魅力をさらに伝えていきたいと思っています。



また、現在、若手の会は役員を中心に運営を行っていますが、役員に限らず、原生生物の研究を行っている若手みんなの意見やアイデアによって若手の会がつけられていけば良いと思っています。ですので、若手が中心となってこんなことをしたい!こんな企画をすれば面白いと思う!などの意見をどしどしお寄せ下さい。若手みんなで若手の会をつくっていきましょう!

最後になりましたが、若手だからこそ出来ることを積極的に行い、若手から学会を盛り上げていきたいと考えていますので、今後とも若手の会をよろしく願い致します。



原生動物園 Vol. 1 ~ 3 Web にて公開中!

「原生動物園」は若手の会が発行を行っている Web 科学雑誌です。原生生物研究者の声や原生生物の魅力、知識などをたくさんの原生生物たちの写真とともに紹介しています。原生動物園は若手の会ホームページにて公開していますので、どうぞご覧ください。現在、原生動物園 Vol. 4 を鋭意作成中です!!

原生動物園ホームページ (<https://sites.google.com/site/protozoogarden/>)

日本原生動物学会広島大会 若手の会 活動報告 若手の会会長 梁瀬 隆二 (兵庫県立大学大学院)

第 46 回日本原生動物学会広島大会では、「新たな技術に学ぶ原生動物研究の未来」と題した若手の会企画のシンポジウムを開催いたしました。このシンポジウムは積極的に新たな技術や考えを自らの研究に取り入れ、原生動物研究のさらなる発展を目指そうという趣旨のもと企画致しました。

このシンポジウムには 4 人の研究者の方々にお越しいただきました。野中茂紀先生（基礎生物学研究所）には光シート顕微鏡 DSLM という新規の顕微鏡技術についてご講演いただきました。この顕微鏡技術は、アメーバの細胞運動の観察にも応用されたように、原生動物の研究においても大変有効なものであります。

野中先生には DSLM について、実際の生物への使用例を交えて詳しくお話しいただきました。和田浩史先生（立命館大学）には数理モデルを用いた微生物の動きの研究についてご講演いただきました。数理モデルを用いた研究は、原生動物たちの未知の細胞運動などについて考える上で重要なものだと思います。和田先生のご講演は、数理モデルに馴染みのない我々にとって非常に新鮮であり、異なる視点から自分の研究について考えてみる良い機会となりました。木原久美子先生（東京工業大学・理化学研究所）には原生生物のシングルセル解析についてご講演いただきました。これらの新規網羅解析は原生生物研究においても大変有効で

あり、木原先生にはその問題点や解決方法、さまざまな原生生物への応用など非常に興味深いお話をしていただきました。加藤貴之先生（大阪大学）には低温電子顕微鏡技術についてご講演いただきました。この低温電子顕微鏡技術は生体内の構造をより生に近い状態で観察できるものであり、バクテリアのべん毛モーターの構造解析などにも使われています。加藤先生には低温電子顕微鏡技術の原理から応用までお話しいただき、最新の技術、研究について多くのことを学ばせていただきました。

今回のシンポジウムは、我々が普段なかなか知ることが出来ない研究について学び、新たな技術や考えに目を向ける良い機会になったのではないかと思います。このたび、われわれ若手研究者のために大変興味深いご講演をしていただきました先生方には改めて御礼申し上げます。また、大会長の細谷浩史先生、会場のセッティングなどにご協力いただきました広島大学の学生の皆様には心より感謝いたします。



シンポジウム演者の皆様

私たち若手の会は今年も研究者はもちろん、一般の人にも原生生物の魅力と研究の今を発信すべく日々活動しています。「原生動物園」の発刊はその一環であり、今後も多くの人が原生動物の魅力に触れられるような企画を行う予定です。

最後になりましたが、私たちの活動を温かくご支援くださる先生方に厚くお礼申し上げます。

今後とも、ご指導ご助言のほどよろしくお願いいたします。

若手の会 役員一同

2014 年度 若手の会役員

会長	梁瀬 隆二	(兵庫県立大学)
会計	内之宮 光紀	(九州大学)
編集長	早川 昌志	(神戸大学)
役員	末友 靖隆	(マイクロ生物館)
役員	福田 康弘	(東北大学)
役員	久富 理	(富山大学)
役員	松原 立真	(筑波大学)
役員	柴田 あいか	(立命館大学)
役員	丸山 顕史	(大阪大学)

原生生物学関連の学会開催情報

ミクロ生物フェスティバル

日時：2014 年 6 月 22 日 (日) 12:00 ~ 16:00 会場：奈良女子大学 (近鉄「奈良」駅より徒歩 5 分)

参加費：無料 詳細情報：<https://sites.google.com/site/wjproto/>

2014 ISOP/ISEP

日時：2014 年 8 月 3 日 (日) ~ 8 日 (金) 会場：Banff, Canada

詳細情報：<http://www.banffcentre.ca/conferences/2013/UOA1408/>

2nd Asian Congress of Protistology (ACOP 2014)

日時：2014年11月26日(水)～28日(金) 会場：Calcutta, India 詳細情報：未定

2015 Conference on Ciliate Molecular Biology

日時：2015年7月10日(日)～16日(金) 会場：Camerino, Italy 詳細情報：未定

7th European Congress of Protistology (ECOP VII)

日時：2015年9月 会場：Sevilla, Spain 詳細情報：未定

事務局からのお知らせ

庶務 島野 智之 (法政大学)

学会名称の変更について

会長からの挨拶にもありましたとおり、日本原生動物学会は2013年11月11日をもって、名称を「日本原生生物学会」と改称いたしました。英文名称は Japan Society of Protistology です。改称にともない日本原生動物学会会則は、日本原生生物学会会則として、いくつかの部分を変更しました。詳しくは、学会ホームページをご覧ください。1年間を移行期間として、手続きを進めて参ります。

会則変更点は以下の通り。附則4は、原生動物学雑誌第1巻巻末に基づいております。

- (1) 日本原生動物学会会則
→ 日本原生生物学会会則
- (2) 第1条 本会は日本原生動物学会 (Japan Society of Protozoology) と称する。
→ 第1条 本会は日本原生生物学会 (Japan Society of Protistology) と称する。
- (3) 第2条 本会は原生動物に関する研究をすすめ、その知識を普及、向上を図ることを目的とする。
→ 第2条 本会は原生生物に関する研究をすすめ、その知識の普及、向上を図ることを目的とする。
- (4) 付則として2項目を附則4および5として加えます。
 4. 本会則は1967年12月2日より施行する。
 5. 本会則は2013年11月11日より改正施行する。

以上、会則の改正等の手続きについては、弁護士等への相談の上、評議員会の承認を得ながら、慎重に進めております。ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

今後とも、会員の皆様のご研究を、これまで以上に幅広く、かつ深く進めていただくのに役立てるよう、努力してまいります。学会運営へのご協力とご支援を頂けますようお願い申し上げます。

学会ホームページの変更について

学会名の変更に伴い学会ホームページのURLを <http://protozoology.jp> より、<http://protistology.jp> に変更し、ホームページを更新いたしました。なお、様々な検索エンジンでも上位にヒットする旧ページから、新ページへの転送も容易に行える様に移行措置をとります。

ニューズレターのタイトル変更について

学会名の変更に伴い、編集委員会、評議員会の了承を経て、ニューズレターの名称を今号 No.26 より Protozoology Newsletter から Protistology Newsletter へ変更いたします。

事務局(庶務)の所在地変更

庶務担当者の異動に伴って、以下の様に変更させていただきます。

〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1 法政大学 自然科学センター内

日本原生生物学会事務局(庶務) 島野 智之

E-mail: gajsp@protistology.jp (庶務電子メールアドレスも変更致しますが、以前のものもお使いいただけます)

編集委員会からのお知らせ

本年度の発刊予定とお願い

2014年度の原生動物学雑誌第47巻は、昨年同様、第1号単独での春の印刷を見送り、1, 2号合併号として秋に発刊する予定です。何卒、ご理解くださいますようお願い申し上げます。

原生動物学雑誌では、皆様からの積極的なご投稿を心よりお待ちしております。特に、原著論文の掲載数を増やしたいと考えておりますので、次の論文の発表先として、是非とも原生動物学雑誌をご一考ください。

皆様のご理解とご協力を、よろしくお願い申し上げます。

原生動物学雑誌 編集委員一同

編集・刊行 日本原生生物学会 編集事務局

〒651-2492 神戸市西区岩岡町岩岡 588-2

情報通信研究機構 未来 ICT 研究所 バイオ ICT 研究室 (編集長: 岩本 政明)

Tel: 078-969-2247 Fax: 078-969-2249 E-mail: iwamoto@nict.go.jp

ニューズレター担当 末友 靖隆 (岩国市立マイクロ生物館)

Protistology Newsletter 26号は学会ホームページからもダウンロードできます。非会員の方への宣伝等にぜひご活用ください。

http://protistology.jp/journal/nl_letter/NL26.pdf